

大谷學報

第五十八卷 第二号

昭和五十三年九月三十日発行

明恵上人の釈尊観……………	坂東 性純 (1)
近代真宗教学の根本関心……………	本多 弘之 (15)
『山家学生式』の周辺……………	名畑 崇 (27)
キャサリン・マンズフィールドの 「家ちがい」について……………	市橋 弘道 (39)
—「編物」を中心に—	
教育学における方法論的反省……………	土戸 敏彦 (49)
—教育学がはらむ認識関心について—	
昭和五十二年 特別研究員 特別研究生 研究発表要旨……………	(64)
彙 報……………	(86)

大 谷 大 学

大 谷 学 会

大谷学報 第五十七卷 第四号

「無始時来」の原語と思想……………佐々木現順

— anamatagga 2 anādikāla —

親鸞の朋友観……………大門 照忍

広宣上人考(下)……………平野 顕照

— 唐代詩僧伝 —

歴史と宗教現象の動態……………古賀 武磨

— 歴史解釈の方法論的序論 —

中世末期における

熊野那智本願について……………豊島 修

— 青岸渡寺文書を中心に —

大谷学会研究発表会要旨

昭和五十二年寄贈交換誌目録

大谷学報 第五十八卷 第一号

非僧非俗の儀……………廣瀬 杲

プラトン『リュシス』の友愛観……………箕浦 恵了

法宝における涅槃経解釈の特質……………木村 宣彰

天理図書館蔵 宗鑑自筆

誹諧連歌抄の構成について……………井口 壽

名畑應順先生を偲ぶ……………細川 行信

昭和五十二年卒業論文題目一覧

「八句念仏」諸譜と旋律の形態……………岩田 宗一

— 甲様の場合 —

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles :

Myōe's Concept of Śākyamuni Buddha*Shōjun Bandō* (1)

Fundamental Thoughts in Shin Buddhism
in the Modern Age*Hiroyuki Honda* (15)

An Essay on "Sangegakushō-shiki"*Takashi Nabata* (27)

Katherine Mansfield's *The Wrong House**Hiromichi Ichihashi* (39)
—With Emphasis on "Knitting"—

Die methodologische Reflexion in der Pädagogik
—Über die Erkenntnisinteresse der Pädagogik—
.....*Toshihiko Tsuchido* (49)

Resumés of Results of Study made by Research
Scholars and Students for 1977..... (64)

Reports

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

大谷学会規程

会務を統理する。

第七条 1、委員は十名とし、教授会に

おいて互選する。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

3、委員の任期は二年とする。但し再

任をさまたげない。

第八条 会員は本会の出版物にその研究を發表し、「大谷学報」並びに「大

谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

第九条 会員の会費は年額金壹千五百円とする。

第一〇条 1、本会の経費は会費をもつてこれに当てる。

2、本会の必要経費については、助成

金を受けることができる。

第一条 本会の事務は、教務課の所管とする。

第二二条 この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

附則 1、この規程は昭和四十八年

四月一日から施行する。
2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

大谷学会役員

委員 岩見 至 大屋 憲一

柏原 祐泉 佐々木教悟

長崎 法潤 名畑 崇

広瀬 英一 藤原 幸章

箕浦 恵了 山本 唯一

昭和五十三年九月三十日発行

編集兼 大谷学会

発行者 廣 瀬 泉

印刷者 西 村 七 兵 衛

京都市北区小山上総町

大谷大学内

発行所 大 谷 学 会

振替 京都一八三九三番
電話 〇七五 四三三三三三
郵便 番号 六〇三

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・史学・文学並びにこれに関連する学術の研究と、その發表をおこなうことを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

一、季刊「大谷学報」の発行

二、「大谷大学研究年報」の発行

三、研究会及び公開講演会の開催

四、その他必要なる事業

第四条 1、本会は大谷大学大学院・文学部並びに短期大学部のすべての教育職員及び学生をもって会員とする。

2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員とすることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。

一、会 長

二、委 員

第六条 会長には大谷大学学長が当り、

大谷大学研究年報 第二十九集

「竊以」の教学……………広瀬 杲

—『教行信証』における三序の意義—

歴史の神話論的考察……………古賀武磨

—特にM・ユリアーデの諸論に関して—

仏日明教契嵩伝私考……………安藤智信

子規歌論の継承と発展……………有田静昭

時間論に対する大乘仏教的視点……………小川一乗

—月称造『四百論釈』

第十一章「破時品」の解説—

大谷大学研究年報 第三十集

戒学研究序説……………佐々木教悟

—十善業道を中心にして—

イエナ期の国家観と『精神現象学』……………訓覇曄雄

—政治とそれをこえること—

選択本願念仏の義意……………江上浄信

ゲーテ研究…イデーと象徴……………友田孝興

ストレス作用要因に対応する

防衛反応の研究……………瀬戸 進

—単独寒冷刺激について—